

社長メッセージ

社長に就任し、一年が過ぎました。昨年は新たな中期経営計画を策定し、その後国内・海外の投資家の方々と意見を交換する機会にも恵まれ、私たちの想いや事業戦略への理解をより深めていただくことができたと思う一方、皆様からの厚いご支援と強いご期待を肌で感じることができました。

まず先期の事業環境ですが、予想を大きく超えた経済変動により、事業環境の潮目が大きく変わった期でした。一つはグローバル経済の進展に伴う原油、原材料価格の急騰によるコストアップです。しかし、一方でこれにより、資源産出国の経済活性化による新たな市場の出現というポジティブな変化も生じております。また、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界規模の経済低迷とこれに伴うドル安・円高という影響もありました。

このような環境下、日本・北米市場は低迷し、タイ市場も伸び悩むなど、当社の事業においても厳しいものがありました。一方資源産出国においては、想定を大きく上回る需要の拡大が起こり、当社はこれを積極的に取り込むこと等で、結果として先期の当社業績は、売上高1兆9,248億円、営業利益1,096億円、経常利益1,223億円、当期純利益760億円となりました。なお、この数値には連結財務情報をより適切に開示するため、アセアン地域の連結子会社8社の会計年度を従来の12月から3月に変更した影響として、売上高1,332億円、営業利益75億円、経常利益83億円、当期純利益42億円が含まれております。



今期につきましては、原材料の更なる高騰や日本・北米での景気停滞により、経営環境の厳しさは先期を上回るものと考えております。これに対し、合理化・採算改善の一層の推進と併せて、これまで通りの成長が見込まれる資源産出国や新規参入国におけるトラック販売を着実に拡大していくことで、今期業績は売上高1兆8,500億円、営業利益1,050億円、経常利益1,150億円、当期純利益850億円を見込んでおります。

また、先期は2005年4月からスタートした中期経営計画の最終年度でしたが、これは計画通りに達成できたと評価しております。具体的には、グローバル戦略商品として「エルフ」、「フォワード」を投入するとともに、事業拡大として、新規海外市場の開拓や出資比率の引き上げによる既存海外販売組織の強化を進めました。これら将来の事業基盤を強化するための積極投資を行う一方、財務体質の強化としてDER1倍以下という目標値の達成やすべての優先株式の処理を完了しました結果、収益面では安定して営業利益1,000億円レベルを継続できる実力をつけることができました。

今期からは、新たな中期経営計画に取り組んでまいります。これまでにグローバル化の第1ステップとして新規開拓してきた市場での事業体制強化と、新型トラックの投入による販売ボリュームの更なる拡大を図ります。このため、品質・価格といった商品競争力強化に加え、各市場と共存共栄できるようなビジネス体制の構築・定着化を進めていきます。

またグローバル化の第2ステップとして、「海外リソースを活用したものづくり」にチャレンジしていきます。これは韓国・中国・インド等の新興メーカーとの競争を想定した新たなビジョンで、日本を中心とし、中国・アセアンを対象として、各市場の部品供給力やその他リソースをグローバルにコーディネートしていくというものです。

今後も、私たちいすゞ自動車は、当社のすべてのステークホルダーの皆様方のご期待に応えていけるよう、持続的成長に向けてチャレンジしてまいります。一層のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

細井行

細井 行
代表取締役社長